

(3)ちくさん業のようす

三島村が力を入れている仕事の一つに、牛をかう仕事があります。三島村は温だんな気こうで牧草がよく育ちます。このような自然のめぐみをうまく利用したちくさん業を村の



牛のお産

大きな^{さんぎょう}産業にしようとしているのです。

牛をかう仕事は、仕事の内容によって2しゅるいの^{のうか}農家に分けられます。1つは、元気な子牛を産ませて、その子牛を売る^{せいさん}生産農家、もう1つは、買ってきた子牛を大きく育てて売る^{ひいく}肥育農家です。三島村では、ほとんどが生産農家です。硫黄島では^{のうさん}農産会社、竹島と黒島ではそれぞれ^{ちくさんしんこうかい}畜産振興会を作り、よい牛を育てるためにきょう力して仕事をしています。村内では、およそ50戸の農家が牛をかっています。



牧場のようす

牛をかう仕事には、広い土地が必要です。村からのほ助で竹林をばっさいし、^{ほうぼく}放牧場や牧草地を作っています。

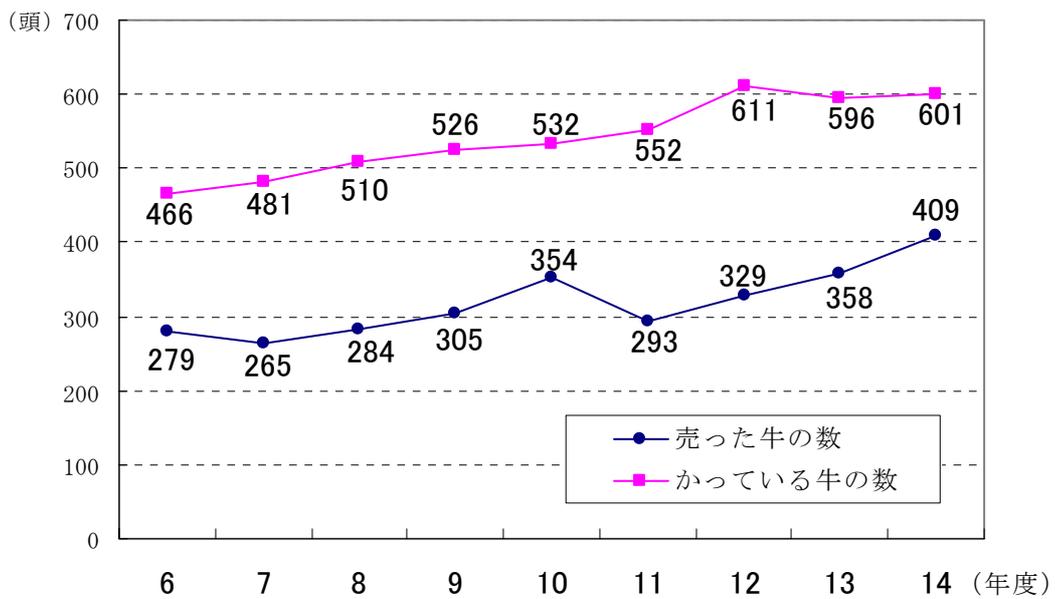
牛を飼っている農家では、毎日牛にえさをあげたり、牛しゃのそうじをしたりしています。また、牧草を育てたり、害虫や病気から牛を守ったりしています。そのほか、牛を牧場から別の牧場へうつしたり、牧場のさくを直したりしています。

月2回「牧場の日」を決めているところもあります。この日は、ほかの仕事を休んで、どの家からも一人ずつは、牧場の仕事に出るようになっていきます。

農家では、生まれてから10ヶ月ほど育てた子牛を島外へ売りに出します。市場でせりにかけるので、売りに出すときによって値段が変わります。



牛の出荷のようす



かっている牛の数と売った牛の数